

令和6年度 2月の園だより

あたたかいもの

先月、年長しろ組さんが、比治山小学校で行われた1年生との交流会「なかよし会」に行ってきました。元気いっぱい歓迎の歌をうたってくれたり、学校ってこんなところだよと劇で教えてくれたり、大事なランドセルや教科書も見せてもらいました。最後に、“小学校へのパスポート”だと、それぞれに手書きのメッセージが添えられたカードを頂きました。一つひとつのメッセージに、年長さんたちが小学校に来ることを心から待ってるよという気持ちがじんわりと伝わってきます。子どもたちもまた、「楽しかった」「ありがとうってお手紙書きたい」と、嬉しそうに言っていました。初対面だったので、お互いに緊張して、言葉でのやり取りはあまり聞かれませんでした。言葉じゃなくても、年長さんの表情を見ながら察して動いてくれる様子を見ると、気持ちは十分に伝わってきます。心が通い合うとでもいうのでしょうか、人間に与えられた特殊な力なのでしょうね。

ひよこ組さんのお部屋に行ったときのことです。お気に入りの“かおかおどんなかお”の絵本を読んでほしいと私の手にポンとHちゃんが置きました。「先生と見るの?」と、たずねると、頭をコクンとしてうなずきます。「かおかおどんなかお…めがふたつ」と読むと、自分の目を指さしたあと、私の目をパチパチと触ります。「鼻はひとつ」と読むと、今度は、鼻はここだと言わんばかりに自分の鼻の穴にグイッと指を入れました。その顔が可愛くて思わず笑ったら、喜んで感じたのでしょうか、何度も同じように鼻の穴に指を入れた顔を見せてくれるので、おかしくて可愛くて大笑いです。絵本を読み進めて「お・し・ま・い」と言うと、もう一回読んでほしいと表紙のほうに戻してから、私の顔をにっこり笑って見上げてきました。もう一回先生と遊んであげるよと言ってくれているのかな。恐るべし心を読む力です。

赤ちゃんの時から、雰囲気や表情などで気持ちを察することが不思議です。

「プリンプリンのシンデレラになって、かぼちゃのばしゃにのって、れんこんまつりにいくの。」2歳児クラスの子どものわくわくするようなつぶやきを職員が教えてくれました。職員は、(プリンセスのシンデレラになって、かぼちゃの馬車に乗って…)ということではないかと楽しそうに解説してくれました。後日、保護者の方にこのお話をすると、れんこん祭りが楽しかったようで、毎日のように、れんこん祭りに行くと言っていると教えてもらったそうです。子どもの伝えたい思いと、分かり合いたいという大人の思いが双方に流れていて、ほっこりとするエピソードです。子どもたちとのやり取りの中で生まれるこの幸せなほっこり感は、情報処理が得意なAI(人工知能)でも解説できないことでしょうか。子どものつぶやきや、表情、身振り手振りで教えてくれることを“なんて伝えたいのかな?”と、一生懸命聞きながら、分かり合いたいと思うことが大事なのかなと思います。

ひよこ組さんの事例のように、相手の気持ちがまるで自分の気持ちのように思う「共感力」は、その2～3年後には次第に、自分の心と相手の心が違うこと、相手にも気持ちがあることに気づいていきます。友だちと意見がぶつかったり、優しくしてもらったりという人との関りの中で、心が揺れ動く経験の中で培われるものです。しっかり話を聞いて共感してもらったり、丁寧にやり取りをしてもらった子どもは、ほかの人の話もよく聞く子になります。そして、そんな風に優しさをもたらした子どもは、ほかの人にも優しさが返せるようになるのです。あなたのことが大好きだよの気持ちを届け、子どもの心の中を愛いっぱいにして「感謝と思いやりのある」子に育ててほしいと願っています。

園長



ハッピーの一場面

第二みみょうこども園の

子どもの興味や関心は色いろなところにたくさん転がっています…。子どもが、どんなことに興味をもって面白がっているのか、子どもの心の中の動きや思いを感じとったりすることが大切です。子どもの遊んでいる表情や様子、つぶやきや行動などから子どもたちが満足して、充実して遊んでいるのかが、よくわかります。このような目には見えない力(心情や意欲など)を育てていくことで、自分らしく自信を持って生きていく土台ができていきます。

「明日は、気温が低く、雪も降るって言ってるから、氷を作ってみよう」と水を張り実験!! 次の日見てみると…みごとに氷が張っていました。触ったり、割れる音を楽しんだり、顕微鏡でのぞいてみたり…五感を使いながら、探究心を持って遊んでいた子どもたちの一場面、こちらも楽しい気持ちになりました。子どもたちの「なんで? どうしてだろう?」の問いを大切に、今までの知識や経験も活かしたり、自ら調べて見たりしながら、あそびが広がったり、深まっていきそうに楽しみです。



2歳児さんが筆で色を混ぜて遊んでいました。段ボールに書いたり、塗ったりするかなと思うと、全くせずに色を混ぜるばかり。少し様子を見てみると、自分の納得する色を作っているんだと気づきました。大人の目で決めつけないように、しっかり子どもの世界でのぞくことって大切ですよ。



こまを作って遊んでいる際、「真ん中にキャップがないとうまく回らない」「テープを貼りすぎてもまわらない」など様ざまなことに気づき、試しては、考え、修正しての繰り返し!! うまくいかなくても、何度も試すことが楽しいんだと感じました。

主任

